

■播隆 山岳行者。槍ヶ岳初登頂で道を拓き、鎖をかけて、岩穴に籠り、信仰登山の霊地とした。
ばんりゅう
天明大飢饉始1782＝ 越中国新川郡河内村で、農業のかたわら一向宗の修行道場を開いていた中村家の次男に生まれる。

田沼意次失脚1786＝ 4歳：

混浴禁止・・・1791＝ 9歳：

松平定信引退1793＝11歳：

プロト来航・1796＝14歳：この頃浄土宗に入門しようとして、親から反対され、

伊能測量始・1800＝18歳：ようやく出家して、和泉国阿辺ヶ峰の宝泉寺見仏の弟子になったという。

間宮海峡発見1809＝27歳：

水野忠成老中1818＝36歳：

奥飛騨笠ヶ岳がかって円空が開山したことを知り、
蝦夷地直轄終1821＝39歳：麓の本覚寺住職を訪ねて、岩屋の場所を知ると、そこに籠って修行を始め、やがて笠ヶ岳の再興を決意、

シボム来日・1823＝41歳：3度目の入山の際、単独で山頂近くまで登ってみて確認の上、住職や名主の協力を得、
シボム鳴滝塾1824＝42歳：*登山道を復旧して再び開山することに成功。
異国船打払令1825＝43歳：阿弥陀如来像の寄進を受け、設置の途中、里程標として小さな仏像を立てて行く。
・・・・・・1826＝44歳：槍ヶ岳の開山をめざし、
日本外史・・・1827＝45歳：仏像や資金の寄進を受けたのち、
シボム事件・1828＝46歳：*中田又重郎の案内を得て、遂に登頂に成功、

天保の大飢饉が始まると、
天保大飢饉始1833＝51歳：*槍ヶ岳を信仰の山にすべしと、弟子を引き連れ、再び信州入り、岩屋に籠り凍傷となるもめげず、
高島砲術・・・1834＝52歳：三度目の登山で、山頂に堂をつくり、仏像を安置、
「信州槍ヶ岳略縁起」をしたため、大坂屋が木版印刷で全国に配布するとともに、資金集めに尽力、
・・・・・・1836＝54歳：
大塩平八郎乱1837＝55歳：

天保の大飢饉も終わったことから、

勸進帳初演・1840＝58歳：*四度目の登山で、鉄の鎖を整備して大願を果たした帰途、太田宿で没した。